

令和4年度(2022年度) 学力向上プラン

伊丹市立笹原中学校

令和4年度 全国学力・学習状況調査結果

各教科平均正答率

	自校	伊丹市	全国
国語	73	70	69
数学	53	53	51.4
理科	51	50	49.3

学習状況調査

(質問番号)質問内容	* 肯定的な回答の割合	自校	伊丹市	全国
(1)朝食を毎日食べている		87.5	90.1	91.9
(7)自分には、よいところがあると思う		80.8	78.8	78.5
(20)家で自分で計画を立てて勉強をしていますか		52.0	52.2	58.5
(32)授業で、ICT機器を、どの程度使用しましたか(週3回以上)		95.2	84.7	50.9
(38)授業で、自分の考えがうまく伝わるよう、工夫して発表していたか		65.4	60.8	63.3
(39)授業では、課題の解決に向けて、自分から取り組んでいたと思う		82.7	74.0	79.2
(49)国語の勉強は好きだ		56.8	56.4	61.9
(53)数学の勉強は好きだ		60.6	56.0	58.1
(61)理科の勉強は好きだ		47.2	61.5	66.4

令和3年度成果と課題(R3学力向上プランから)

【成果】

全国学力・学習状況調査の結果は、国語、数学ともに全国平均・市内平均とほぼ同程度である。現3年生入学時の学力状況を鑑みると、そのレベルは維持していると言える。国語では、「文脈に即して漢字を読む」ことについて正答率が90%を超え、「話すこと・聞くこと」「書くこと」に関する設問での正答率が高かった。授業でICT機器を活用する場面が増え、自分の考えや意見を交流する機会が増えたことが結果につながっている。数学では、与えられた表やグラフから必要な情報を適切に読み取るなどの問題での正答率が83%~96%と高い。ICT機器活用に係る設問では、上記(29)をはじめ、(26)(27)(28)に対する肯定的回答が、全国・兵庫県・伊丹市どの平均と比べても圧倒的に高い。昨年度1人1台のタブレットが導入され、教員が日常の授業で積極的に活用し、家庭への持ち帰りもほぼ毎日実施してきたことの成果と言える。また、(35)「1,2年生での授業は自分に合った教え方・教材・学習時間になっていたか」に対する肯定的回答が84.6%と、かなり高い。さらに、国語・数学とも「授業内容はよくわかる」への回答が、全国・兵庫県平均より約10ポイント高い。研究推進のテーマ「プロジェクト型学習の創造」をさらに充実・深化させる。

【課題】

上記(68)(69)のように、国語・数学ともに、解答時間が間に合っていない。設問を「読みとる力・書く力」が弱い。興味関心をひきつける授業、社会とのつながりをもつ授業、ていねいな指導の授業の一方で、一定の時間内により多くの「情報を処理する力・加工する力」の育成が必要である。国語では、読書や話し合いの機会を増やし、ものの見方や考え方を広げ、自分の考えを形成・発信する力を育てたい。数学では、物事の事象に対して結果だけを見るのではなく、数学的見方や考え方を通して、根拠をもとに考察したり、一般化して表現する力を育てたい。今後も、一つ一つの知識がつながり、「わかった」「おもしろい」と思える授業づくり、「資質・能力の育成」のための「主体的・対話的で深い」学びを目指して研究を進めていく。

R3学力向上プランの取組による令和4年度調査の成果と課題

【成果】

・国語は、全国平均ならびに兵庫県平均より、やや高い数値である。数学と理科は、全国平均ならびに兵庫県平均とほぼ同程度である。1年時より、タブレット等のICT機器を効果的に活用してきたこと、また、「落ち着いた授業態度」「規律ある生活態度」「笹トレ」「サクセスシート(授業の振り返りシート)」「プロジェクト型学習」などの取組の成果が出ていると言える。
・ICT活用については、質問番号(33)(34)(35)全てにおいて、全国平均・兵庫県平均を大きく上回っており、一昨年度(入学当初)より積極的に活用してきたタブレット(スクールタクト)を含む、ICT機器活用の成果が出ている。

【課題】

・どの教科においても、「根拠」と「理由」の違いを明確にした上で思考・判断する力は不十分と言える。今後の授業改善における笹中全体の課題である。
・「家で自分で計画を立てて勉強している生徒」が、前回調査では67.7%だったのに対して、今年度は52.0%(全国58.5%)で、15ポイント程数値が下がっている。授業での振り返りシートを家庭での主体的な学習に、いかにつなげることができるかが課題と言える。特に、3年生は、今後、入試までの長期の学習計画を立てる力が必要となる。
・国語、数学、理科の3教科について、その勉強が好きかどうかの質問に対して、数学のみが全国平均、伊丹市平均を上回っている状況で、国語、理科については、全国平均を下回っている。特に、理科については、全国平均から約20ポイント、伊丹市平均から約15ポイント下回っており、ここ数年の本校としての大きな課題である。

令和3年度改善策(R3学力向上プランから)

【令和3年度 学力向上の具体策】

- ①学力調査・実力テスト・授業評価アンケートの分析にもとづく学習指導の充実、社会とのつながりや必要感のある課題設定・本質的な問い・しかけなどの場づくりを意識した授業改善。本時のねらいと振り返りの質をあげる。「研究」と「研修」の違いを明確にする。
- ②班学習や教え合い学習など指導形態のさらなる工夫・充実(意図的なペア・グループ編成と目的意識の明確な対話学習)、「笹トレ」の手法を各教科に落とし込む
- ③考えたい課題設定・発問の工夫・しかけ(授業における意図的な場づくり)
- ④ICT機器の利活用推進と設備充実(タブレットの日常的活用、各種アプリの活用)
- ⑤授業のユニバーサルデザイン化推進の継続(視角・聴覚・体感)
- ⑥3年生数学での習熟度別学習の実施
- ⑦全学年英語での同室内複数指導(週1時間)の実施
- ⑧数学異学年教え合い学習「笹トレ」(水曜6校時30分)による学力定着・自己有用感の向上
- ⑨土曜学習の充実(10月から月2回程度、全11回実施)
- ⑩各教科各単元に応じた「サクセスシート」(授業の振り返りシート)の一層の充実と主体的家庭学習への連動(「みんなの学習くらぶ」の活用)
- ⑪英検・漢検・数検等の検定取得の推奨
- ⑫学校図書館の活用と読書量の増加(SSSの活用による開館日の確保)
- ⑬笹中校区3校合同生活点検週間チェックシートの活用による生活習慣(朝食・学習時間等)の改善
- ⑭コミュニティ・スクールとして、地域・家庭との連携強化、および、マンネリからの進化・発展

令和4年度 改善策

【令和4年度 学力向上の具体策】

- ①学力調査・実力テスト・授業評価アンケートの分析にもとづく学習指導の充実、社会とのつながりや必要感のある課題設定・本質的な問い・しかけなどの場づくりを意識した授業改善。本時のねらい・学習活動・評価の一体化。「研究」と「研修」の違いを明確にする
- ②チーム学習や教え合い学習など指導形態のさらなる工夫・充実(意図的なペア・グループ編成と目的意識の明確な対話学習)、「笹トレ」の手法を各教科で活用
- ③考えたい課題設定・発問の工夫・しかけ(授業における意図的な場づくり)
- ④ICT機器の利活用深化、発展(意図的な活用)と設備の充実(タブレットの日常的活用、各種アプリの活用)
- ⑤「笹スタ5」(全教科共通学習スタンダード)の実践。「まとめ」と「振り返り」の明確な区別
- ⑥1・2年生数学での習熟度別学習の実施
- ⑦全学年英語での同室内複数指導(週1時間)の実施
- ⑧数学異学年教え合い学習「笹トレ」(水曜6校時30分)による学力定着・自己有用感の向上
- ⑨土曜学習の充実(9月から月2回程度、全13回実施)。
- ⑩単元末テストの実施、各単元に応じた「サクセスシート」(授業の振り返り)の一層の充実と主体的家庭学習への連動(「AIDリルミライシート」の活用)
- ⑪英検・漢検・数検等の検定取得の推奨。
- ⑫学校図書館の活用と読書量の増加(SSSの活用による開館日の確保)。
- ⑬笹中校区3校合同生活点検週間チェックシートの活用による生活習慣(朝食・学習時間等)の改善。
- ⑭コミュニティ・スクールとして、地域・家庭との連携強化・熟議内容の精選。

各教科の分析に基づいた具体的取組

	1年	2年	3年
国語	<ul style="list-style-type: none"> 探究心を持たせるために、今学習している内容が、日常生活にどのように活かされるのかを実感させる。 読む・書く・聞く・話す能力を伸ばすためには、語彙能力を高めることである。ICTを取り入れながら意味しらべを単元ごとに行う。 朗読やスピーチなど違いを意識させ工夫をさせることで、自信を持って発表や発言をさせ、聞く力も身につけたい。 小論文や説明文に慣れさせながら、文章を書く基本的なことを学ばせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的な語彙力を養うために、漢字の小テストや聞き取りテストなどを重ね、苦手意識を払拭させる。 ICTを積極的に取り入れ、国語に興味を持たせ、国語力向上に努める。 思考したことを作文やスピーチ、話し合いなどで表現できるように、思考する時間をとり、適宜グループで教え合う機会も設ける。 生徒アンケートから、サクセスシートが学習意欲の向上にあまり繋がっていない様子だった。そのため、内容と回数を変更し、生徒が自身の学習の振り返りと向上ができるよう、サポートしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 紙媒体とICTを適宜活用して、生徒が50分間思考し続け活動できるような授業を組む。 多読と精読の機会をバランスよくとり、音読をできるだけ取り入れることで語彙力を強化する。 話し合い、学び合い、教え合う機会を多くとることで、情報を精査する力、適切な言葉を用いて伝える力を付ける。 授業を離れて、また卒業後も国語学習に意欲的に取り組めるよう、学習の仕方を伝えるとともに読書の習慣を付けさせる。
数学	<ul style="list-style-type: none"> 数学を用いた課題解決を通して、数学の有用性を感じられるような教材を検討する。 めあての工夫が必要である。単なる行動目標のようなめあてばかりではなく、生徒が思考したくなるようなめあての設定をしていく。 デジタル教科書やICT機器を効果的に使用し、特に、グラフや図形分野で視覚的に情報を精査できるよう心がける。 基礎学力の向上を目指し、単元テストを活用する。定着していない内容については補習を行ったり、再テストを実施したりすることで、生徒が自ら演習を繰り返し、家庭学習を行うようにしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ふり返しシートを用いて、知識・技能に加え、思考力・判断力・表現力が身につくような課題を取り入れる。考え方や、説明を記述させ、評価することで数学への意欲、関心を高める。 「めあて」を単なる行動目標のような形ばかりではなく、生徒が自ら思考していくヒントとなるような設定をしていくことも必要である。 課題設定を見直し、基礎的な内容の定着と思考を深める問いを織り交ぜていく授業を展開する。 単元テストに関しては、主に知識・技能の振り返りができるように活用する。 基礎基本の定着を徹底できるように習熟度別授業実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 「3分間テスト」を授業前半に実施して、大問1に対する知識・技能の力を着けさせる。 単元テストに関しては、主に知識・技能の振り返りができるように活用する。 めあてに関しては、生徒がワクワクするような仕掛けが必要であり、「なぜ？」を大切に、数学についての思考を促すような問いを与えて授業を展開していく。 3年間の集大成として、習得してきた数学の知識や技能、考え方を活用して、他教科との関わりも持たせながら、実社会に生かせるような授業を単元末に設定していく。
理科	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちが普段の生活の中で経験していることを、科学的な視点で考えることができるように、実験や観察を行っていく。 身のまわりの事を題材にして、日常生活の疑問を解き明かせるような手立てをする。 知識の定着や、定着具合を把握するための小テスト等を実施する。 タブレットで疑問に思ったことを調べさせるなど、自らが興味をもったことを大切に、授業の中でも積極的に触れるようにする。 めあてを明確にし、その時間で身につける力を理解させた上で、授業を行っていく。 振り返りシートを活用し、疑問点や新たな発見など自由表記できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> めあてを明確にし、その時間で身につける力を理解させた上で授業を行う。 毎回の授業の終わりに、その時間に学習した内容のまとめを自分の言葉で書かせる。 毎回の授業のはじめに、前回の授業で行った内容の小テストを行い、前回の内容を振り返った上で、新しい内容の授業を行う。 実験、観察をする際には、結果を記録するだけでなく、なぜそのような結果になったのか、予想にもとづき、個人やグループでしっかりと考察させる。 実験の結果に対する、生徒の考察を共有し、理論的にまとめる。 実験、観察を通して、実際に体験させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業内で行う課題などについて、各自がしっかりと考える時間を確保し、考えた内容を記録するようにし、誰もが書き取れるノートをつくらせる。 タブレットで疑問に思ったことを調べさせるなど、自らが興味をもったことを発展的に積極的に触れるようにする。 グループ内、クラス内での対話により、一人一人の学ぶ意欲を高め、積極的に授業に参加できるようにする。 実験、観察を通して、実際に体験させる。 実験、観察の結果を正確に記録するとともに、結果に対する考察を予想と比較しながら、丁寧に書く時間を確保する。
社会	<ul style="list-style-type: none"> サクセスシートの書く内容を細かく分割し、「今日のめあてのこたえ」「重要語句」の項目を設定し、各授業ごとに何を理解したのかを、めあてに対する生徒自身の回答として書かせる。 サクセスシートの裏面で、単元ごとに生徒が疑問点を提示し、調べ学習を行い、解決し、社会科への意欲関心を高められるようにする。 授業ごとに、まとめ・振り返りを行い、その日何を学んだのかを整理することで知識の定着をはかる。 こまめに単元テストを実施し知識の定着を狙う。 	<ul style="list-style-type: none"> スクールタクトで、授業のめあてに合った振り返りを課題としてだし、「今日の重要語句」や、「疑問点」を書くようにしている。 単元ごとに、単元での疑問点を調べ学習として取り組み、自身の疑問は、次の単元に行くまでに解決するようにする。 また、単元テストをこまめに実施し知識の定着を図る。 単元ごとに、思考ツール等を使い、授業の復習を行う。 学習した内容を、振り返り、整理することで知識の定着を狙う。 	<ul style="list-style-type: none"> サクセスシートを活用し「今日の重要語句」「今日の授業を受けての疑問や質問」の項目を設定し、考える活動を重視している。従来のやり方を変更し、当日中にふり返しを提出するように変更し、その日のうちにふり返しを行うように変更した。生徒たちは意欲的に取り組んでいる。 単元テストをこまめに実施し知識の定着を図る。定期テスト前に実施することで、意欲の向上につなげる工夫を行っている。
英語	<ul style="list-style-type: none"> 単元テストを定期的に行い、スモールステップになるよう、工夫する。 学習の定着を図るために、前時学習した内容を復習するためのペア活動を導入時に取り入れる。 場面や状況設定にこだわり、いつどのように学習する語彙や表現を活用するのか具体的に示す。 評価の基準を明確にし、パフォーマンステストの際にも生徒にしっかりと示していく。 活動中、中間発表をし、全体で改善点、良かった点を共有する。 CAN-DOリストを活用し、各学年・各学期における4技能・5領域の目標基準を明確にする。(市内統一) 	<ul style="list-style-type: none"> 英語席を工夫し、生徒同士の教え合い活動を円滑に進めさせる。 学習の定着を図るために、前時学習した内容を復習するためのペア活動を導入時に取り入れる。 場面や状況設定にこだわり、いつどのように学習する語彙や表現を活用するのか具体的に示す。 評価の基準を明確にし、生徒にしっかりと示していく。 日々の授業の中で帯活動として取り組んだ内容が発揮されるようにパフォーマンステストを実施する。 授業の中で中間発表をし、全体で改善点、良かった点を共有する。 CAN-DOリストを活用し、各学年・各学期における4技能・5領域の目標基準を明確にする。(市内統一) 	<ul style="list-style-type: none"> 英語の座席を工夫し、生徒同士の教えあい活動を円滑に進めさせる。 学習の定着を図るために、前時学習した内容を復習するためのペア活動を導入時に取り入れる。 目的、場面、状況の設定にこだわり、学習する語彙や表現をいつどのように使うのか具体的に示す。 評価の基準を明確にし、生徒にしっかりと示す。 日々の授業の中で帯活動として取り組んだ内容が発揮されるパフォーマンステストを実施する。 授業の中で中間発表をし、全体で改善点、良かった点を共有する。 CAN-DOリストを活用し、各学年・各学期における4技能・5領域の目標基準を明確にする。(市内統一)